



Newsletter

The Friendship Force of Aichi

発行 2005 年 12 月



7 月カルガリークラブ訪問、10 月マンチェスタークラブ受入れの両交換が行われた。愛知クラブの交換に新たな素晴らしいページが加わり本年度の交流計画はすべて完了した。また、10 月役員会で、2007 年度 **ASIA PACIFIC FESTIVAL** が愛知クラブのホストで開催されることが決定され、これを機に交流の輪が今後一層広がって行くこととなった。

FF 愛知ホームページ <http://homepage2.nifty.com/FF-Aichi/>

FRIENDSHIP FORCE INTERNATIONAL ASIA PACIFIC

FESTIVAL IN AICHI : APRIL 4th~8th 2007

会長 鷹野晴子

アジア・パシフィック・フェスティバルが愛知で開催

2007 年のアジア・パシフィック・フェスティバルが愛知クラブ主催で開催されることが正式に決まり、11 月のブラジルにおける世界大会で石井嗣代さんから紹介されました。

“Castle and Cherry blossoms” がフェスティバルのテーマです。同時に「もの創りの愛知」の紹介を入れたプログラムが予定されています。

このフェスティバルの実行委員長に会員の強い希望で加藤八郎さんが選ばれました。次期会長を中心に愛知クラブ会員がこの大会の成功をめざして楽しく準備を進めていきたいと考えております。多くの人たちに「愛知を楽しんでいただき、愛知を知っていただく」そしてこの土地で、すばらしい友情の輪を新たに広げていきましょう。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

12 月 17 日、第 2 回目の APF 準備会では「城について」の勉強会を持ち、安藤龍藏さんの大へん興味深い講義がありました。次回からはそれをさらに深め、加藤八郎さんによる英語での勉強が予定されています。

実行委員長 加藤八郎

アジア・パシフィック・フェスティバルの成功に向けて

2007 年のアジア・パシフィック・フェスティバルの愛知開催が決まりました。FF 東海が発足して 18 年、FF 愛知になって 10 年目にあたる年にクラブとして大きな事業を行うことは大変意義深いことです。

この事業の実行委員長に選ばれ、新しい仕事にチャレンジする機会を与えられたことに感謝いたします。「城と桜」をテーマにこの地方の産業の紹介などを加え、世界から集まるアンバサダーに充分楽しんでいただける魅力あるプログラムを組んで行きたいと考えております。

すでに受入の交流の際に参加を促したり、世界大会で宣伝のチラシを配ったりして、広報活動を始めておりますが、早々に実行委員会を立ち上げ準備に着手しなければなりません。

このフェスティバルを成功させるには会員全員の皆さんの協力なしには出来ません。受入、渡航などで過去に素晴らしい実績を上げてきた私たちのクラブです。間違いなく成功させることが出来ると信じております。

我々の総力をあげて成功に向けて、楽しく、仲良く、助け合って準備に取り組んで行きたいと思っております。どうぞよろしくご協力の程をお願い申し上げます。

カルガリー交流で学んだこと

ED 竹中 ふみ代

今回の渡航は予想に反し、14名という少ない参加者でしたが、設立4年目のカルガリークラブは、今回が初めての日本からのアンバサダー、またカルガリー最大のイベント「スタンピード」開催期間中の受け入れも初めてということで、多彩なプログラムと手作りのおもてなしで我々を歓迎してくださいました。プログラムの目玉ともいべきスタンピードでのナイトショウは、今年がアルバータ州制100周年とあって「例年以上の豪華さだ」と、ホストが話していましたが、他のスケジュールも、それに勝るとも劣らない充実した内容で、あらゆる点において行き届いた心配りが感じられました。また、そこには彼等の合理性も備わっていて、色々と参考になりました。



先ず準備の段階で、カルガリーのEDから「クラブの方針で、ED同士のプレゼント交換はしない」との申し出があり、シンプルをモットーとしている私としては有難く、すぐに同意しました。次に「交流ブックレットにアンバサダーの写真を載せたい」との、写真送信依頼があり、うまく届かなかった人などがいて少々時間を要したものの、到着後に受け取ったそれは、制作者のセンスが光る、有用かつ美しいものとなりました。

制作者は、右半身不随ながらも広報を担当しておられる方で、その前向きな姿勢には感動しました。

前もって送金したホストフィーは、オプションのスタンピードを除く、プログラムの全費用に予算配分され、バンフ・レイクルイーズへの一日旅行には、数人のメンバーのワゴン車と、メンバー手作りの昼食が用意されましたが、ガソリン代、その他の費用も予算に入っていました。メンバーの金銭的な個人負担が最小限というのは、活動を長く継続していく上で大切なポイントであると思います。

カルガリークラブでは、一つの受け入れに多くのメンバーが関わり、万全の協力体制のもとでプログラム

が進行し、各々が自分の役割に責任をもち、しかもそれをさりげなく遂行されていたのが、特に印象的で、彼等の豊かなボランティア精神を感じました。

ホストをしていないメンバーに対しての配慮もあり、それはホスト以外のメンバー宅でのポットラックディナーに、ホストとアンバサダー、それに他のメンバー1人も招待される、というものです。これも友達の輪が広がる良いアイデアだと思いました。



交流最終日、19世紀はじめに建てられたというロッジでのフェアウェル・バーベキューパーティは、たつぷりと時間がとられ、蹄鉄投げや乗馬体験、また焼印ならぬスタンプでの「Branding」というカルガリーならではのユニークなお遊び儀式があり、最後までアンバサダーを楽しませる事に徹していた彼等に脱帽しました。

あっという間の楽しい1週間でしたが、「心温まるおもてなし」の極意を教えられた気がします。

今回、はじめて渡航EDという貴重な経験をさせていただき、色々な面で勉強になりました。

機会を与えていただいた事に感謝するとともに、多大なご協力をくださいました皆様方に、ここに改めて心よりお礼を申し上げます。



カルガリー交換を通して

鷹野晴子

カナダの有名なフェスティバル、スタンピードがまさに始まろうとする頃、我々愛知クラブの14名はカルガリー空港に降り立ちました。

おりしもバンクーバーからカルガリーへの飛行機の中で見た新聞にはスタンピードのお祭りに遠路運ばれた馬の事故死に大きな写真入で批判的な記事が出ていましたが、当日4頭立ての馬のレースに熱狂する人々には「また、グリーンピースが文句言っているのよ」とまったく問題にしていないう様子。ともかく馬がすべて、イギリス的な馬術競技場も持ちながら、一方では開拓から始まったカウボーイの西部の文化が今でも人々の精神生活に根ざしていることが分かりました。

交換中、私たちは暖かい西部のホスピタリティーで歓迎されました。

ディナーホストによる小規模の持ち寄りパーティー、ロッキー山脈ツアー、すべてのプログラムがクラブメンバーの働きで成り立っていることをみて、日常的に彼らの文化に根ざしているボランティア精神の歴史の深さをあらためて感じました。

日本との物価の違いは大きな問題です。実際に交換を運営する立場から考えると\$75のホスティングフィーだけで我々に提供された内容豊かなプログラムを実行することは不可能だとクールに考えてしまいます。

ではどうしたら良いか。やはりそこは割り切って観光旅行は実費を出していただく方法を取らざるを得ません。

愛知クラブにはカルガリークラブ同様に、ボランティア精神で働いてくださる方が多くいます。みんなで協力し合いながら今度はカルガリークラブの皆さんを暖かくお迎えしたいと思います。

最後に長い期間をかけカルガリー交換に尽力されたED竹中ふみ代さんに心から感謝申し上げます。

マンチェスター交換のAEDとして

堀 夏江

受け入れは何度もしているものの、アシスタントとは言えEDのお手伝いは初めての経験。しかも我が家のゲストは身体に不自由なところがある方??

実際に交換が始まる前は一寸心配!ところがEDが鷹野さんで有った事、ゲストが本当に良い人達で有った事(非常に冗談が好きな人達)。少し何時もより忙しかったけど終わってみると楽しかったし、良い思い出になったと思っています。

鷹野さんには本当に色々教えて戴きました。

私は手伝うだけでたいした事はしていないのにヘマをして、其れに比べるとEDは本当に大変だと良く分かりました。

今迄はただ楽しかったネとか大変だったネと言っていれば良くEDの苦勞を考えた事も無かったから其れが分かる様になっただけでも良かったかな?

新しく出来たマンチェスターの友達から彼等が作ったCDが送られて来ました。

音楽とか写真が入っていてパソコンで何時でも見る事が出来、必ず遊びに来る様にと招待もしてくれています。次に逢うチャンスが有るかは分からないけど良い1週間で有った事は確かです。

思い出に残る心暖き人たち

山田 晴久

楽しみにしていたカルガリーへの旅行である。だが遠方への旅行はいつも飛行機で参ってしまう。

しかし幸いにも空席が多く、ゆっくりと横になってカルガリーまで行くことができた。空港にはルックさん夫妻が迎えに来てくれた。

ルックさん宅には、私と服部さんが一緒にお世話になった。到着した当日はフライトの疲れもあって早く床についた。

夏のカルガリーは、北海道と気候が似ていて夜は大変涼しく、しっかり熟睡することができた。

ルックさんはオランダの出身で14年前にカナダに移住された方であるが、言葉にナマリが多く聞き取るのに大変苦勞した。

あくる日は、全員でオリンピックパークを見学した。

そのときちょっとしたアクシデントがあった。それは私がカメラを失くしてしまったことである。ルックさんは食堂か売店に置き忘れたのでしょう、カナダでは必ずありますよ、帰りにもう一度寄ろうといってくれた。

しかし私は、やはり気になり一人で探しに行った。するとあとからルックさんが私を追いかけて来て一緒に探してくれた。食堂、売店にもなく何処にもなかった。結局ちょっとしたところにあったのだが、ルックさんが一緒に探してくれたことは大変うれしかった。

またガリーさん宅のディナーでも大変手厚く歓迎していただいた。勿論ルックさんは最後まで我々を親切にしてくれた。

カルガリーメンバーの多くの人たちの親切さが心に残るカルガリーステイでした。

カルガリー訪問記

中川孝一

7月5日(火)

中部国際空港を 17:00 に発ち、バンクーバーへと向かう。7月5日(火) 10:15 バンクーバー到着後、カルガリーに向かい 14:23 に到着(時差はマイナス 15 時/4 月～10 月サマータイム中)

FRIENDSHIP FORTH OF CALGARY の歓迎を受けた後、ホスト・ファミリー宅へと向かいました。

ホスト・ファミリー宅では家族などの情報を写真や資料を示しながら話し合い、親交を深めました。

7月6日(水)

1988年に実施された冬季オリンピック会場(公園)を訪れてジャンプ台の上部に上がり滑り始めるときの怖さを体験した。また記念品などが展示されている会場も見学しました。

アイス・ハウスの中には、ボブスレー競技のコースが作られており、実際に滑りを体験された方もおられました。

ウェルカム・パーティに招待され、ROYAL CANADIAN REGION で美味しい食事に舌鼓をうちながら歓談しました。

7月7日(木)

アルバータ・ブーツ会社を訪れ、手作りで高級な靴の製造工程を見学しました。

何年も使用した汚れた靴を修理することも実施しており、良いものを大切にする思想が伺えました。

市内観光をしてから市庁舎を訪問し応接室で歓迎を受けました。カルガリー・タワーも見学致しました。

夕食は、日本より持参した調味料で食事を作り、日本食を楽しんでいただきました。

夕食に招待したMR.ARLO MCOOL が 70 才の誕生日だったので急遽誕生パーティーとなり、思い出多い夕食となりました。

7月8日(金)

昼食にお好み焼きをつくり、サービスしました。有名なスタンピード競技が 7-17 日まで開催されたが、我々は 2 日目の競技を見学することができ、4 頭だての馬車 4 台による競技でスタート時御者の手腕によってある程度勝負が決まるレースで、1 回廻ればよいところを 2 回廻っていた馬車もありました。

夜になって大きな舞台が設置され、色々なショーが行われ花火も打ち上げられて楽しいショーでした。

7月9日(土)

スプレース牧場で馬術競技を見学しました。アンバサダーは各々ディナー・ホスト宅を訪ねて夕食をご馳走になりました。

7月10日(日)

観光地バンフを訪れレイズ湖とロッキー山脈を背景とした有名な景色を写真に納め、また立派なホテルを見学しショッピングを楽しみました。

7月11日(月)

フェアウェル・パーティーは、1900 年代初期に建てられた DARTIQUE LODGE で行われた。

昼間は屋外でゲームや乗馬を楽しみ、夕方より有名なアルバータ牛のブロック(約 250g)を炭火で焼いて食べました。

お互いに面識が深まっていたので、和気あいあいのムードで大いに盛り上がったパーティーでした。

我々は、ハッピを着用して阿波踊りを披露した後、炭坑節も披露しました。本格的な阿波踊りの衣装で臨んだ方もおられました。

7月12日(火)

カルガリー国際空港を 10:00 に発ち、中部国際空港に 7月13日(水) 15:00 到着、無事帰国しました。

今後は、FF の精神に従ってホスト・ファミリーを始め、親交のあった方々との交流をさらに深めるよう努力したいと思います。

緑の村 より



Calgary クラブとの交換



マンチェスター交換(10月6日～13日)

ED 鷹野晴子 AED 堀 夏江

プログラム

| 日 | プログラム内容 | 担当・協力者 |
|----------|---------------------|-----------------|
| 10/6 (木) | 出迎え 中部国際空港 | 出迎え協力者 5名 |
| 10/7 (金) | 麒麟ビール&トヨタ テクノミュージアム | 送迎協力者 11名 |
| 10/8 (土) | ウエルカムパーティー(東天紅) | 担当者 10名、参加者 40名 |
| 10/9 (日) | デイホスト | 11名 |
| 10/10(月) | フリー | |
| 10/11(火) | 京都バスツアー | 担当者 3名、参加協力 11名 |
| 10/12(水) | フェアウエル ピクニック&名古屋城見物 | 担当者 10名、参加者 30名 |
| 10/13(木) | 群馬県太田クラブへバスで移動 | バス同行者 6名 |

10年ぶりのマンチェスタークラブの受け入れは交流を重ねることによってイギリス国家の複雑な歴史、形態と人々をより深く理解できた意義のある交換になりました。

スケジュールを計画するにあたって今回初めての試みとしてビールの試飲を組み込んだ愛知の企業見学をプログラムに入れました。

久保さんの紹介でまず麒麟ビール工場へ下見に出かけました。加藤八郎さんはじめ佐藤公世さん等、ビールの好きな男性6名と女性2名が参加し、900円のコーヒー、紅茶付のランチを試食し、工場見学とビールの試飲を楽しんだ後、全員一致でこれをプログラムに入れることを決めました。これに車で10分のところにあるトヨタ・テクノミュージアムを加えるのは妥当な選択と考えました。

当日、アンバサダーは彼らのビール、“Ale”、“Stout”“Guinness”と一味違う日本のラガータイプのビールを楽しんでくれました。次いで“愛知のもの創り”の原点の一つとなるトヨタ・テクノミュージアム見学。

マンチェスターは産業革命が進展する中で、繊維工場の中心都市として発展した都市です。

トヨタ自動車の母体となる繊維機械産業と繊維機械で有名な英国ブラット社との興味深い歴史的なつながりに関心を持って熱心に見学されました。

プログラムのハイライトはウエルカムパーティーとフェアウエルパーティー。それに京都バスツアーが加わりました。

それぞれの担当者が綿密な計画の下、すべてが滞りなく行われました。これにデイホストの暖かい協力がプログラムを円滑にしてくれました。

交換中、どのプログラムにもユーモアを交えながら積極的に楽しもうとするアンバサダーの姿は私たちホスト側にとって気持ちの良いものでしたし、参考になりました。

こういった交換でいつも先頭に立って働いてくださる久保さんに続いて最近多くの男性のドライバー、アテンダントとして積極的に協力してくださる姿が見えるようになりました。

会員全体がバランスよく楽しく協力して交換行事が活発になってきたように感じられます。

交換を成功させるべく協力者の責任ある実行力は2007年に予定されたAPF愛知開催に明るい見通しを感じさせ、私達を勇気付けるものでした。

今後も多くの会員が交換を楽しむことが出来るようにしていくことがなによりも重要な課題と考えております。

皆様の惜しみないご協力に心より感謝申し上げます。

また、今回の交換は昨年マンチェスタークラブを訪問された岐阜クラブの方々がプログラムに大勢参加していただき、クラブ同士の一層の親交を深めることが出来ました。春のWFDから始まった交流ですが岐阜クラブさんの暖かい友情に感謝しております。

ED 鷹野晴子記

Q and A によるインタビュー方式によるマンチェスター交換感想記録

ホスト伊藤美恵子さん

Q . 1 . 今回ホストをはじめてしていただきましたがアンバサダーはどのような方でしたか？

A . Kathleen Yasue (71) は穏やかなイギリス婦人らしい？方でご主人が日本人で20年前に亡くなられたとのこと、子供(5人)はミドルネームが日本名でした。日本へ来たのは始めてでロンドンで日本食レストランをやっていたので、食べ物には馴染みがあり、茶碗蒸しや味噌汁白和え等も2-30年ぶりに食べたと喜ばれました。

一緒にいても違和感が無く実の叔母という様な自然な感じでした。

短期間でしたが、深い心の交わりが出来たような気がします。

Q . 2 . ホストをサポートして下さる方をお願いいたしましたがいかがでしたか？

出迎え：佐藤美知子さん

見学の送迎：白木さん

デイホスト：小田さん

今後もこのようなシステムを望まれますか？

A . サポートは本当に助かりました。(これが無ければ、一人でお手上げだったと思います) 出迎え佐藤さん：メールと電話で連絡を取りあい、当日家の近くで引渡しをとの事でしたが、家まできていただくほうが本人も安心だろうと思いFAXで家の地図を送りました。

ご主人と二人で無事送り届けて下さり一緒に上がって頂きしばらく話しました。

見学アッシー白木さん：事前にやはりFAXで家の地図を送っておき、前日に時間を電話で打ち合わせました。頼もしい方に往復お任せして一日とても助かりました。

デイホスト小田さん：事前にどこへ行くのが良いか少し話し合いましたが有松に連れて行ってくださいました。(なるみ神社のお祭りもあって)とても喜ばれたようです。

夜遅いお帰りだったので、少し心配しましたが、...

フルに一日楽しませて下さったようです。

という事で、このシステムのお陰で、ホストは助かりアンバサダーも他の人と交流ができて

とてもいい事だと思います。(私も次回はお手伝いできたらと思います)

又京都ツアーの日は、久保さんが彼女を駅から土居さんのお宅まで連れて行って下さって、私が土居さんの所へ迎えに行き、ついでに夕食(お好み焼きパーティー)までご馳走になり、あちらの夫婦と一緒にカラオケまで行ってとても楽しい思い出が出来ました。(謝謝)

Q . 3 . ホストをして困った点がありますか？

A . 困った事は特にありませんが、普段朝寝をしているので朝早く起きれるかが心配でした。

又一人暮らしのために話し相手が私だけで退屈だったかもしれません。でも、今回は丁度いい相手でした。(私も1週間英語だけ話してちょっとした英語合宿?の様でした)

Q . 4 . ホストとは朝、夜とどのように過ごされましたか、交流を楽しめましたか？エピソードなどありましたらお聞かせください。

A . 2日目の夕方には私の英語教室で9人の子供達と1時間過ごしてもらい、両方が楽しい時間だった様です。彼女の家族の写真をカラーコピーさせてもらい、それを見ながら家族のことを聞き、私もイギリス旅行の時のアルバムを見せて話しました。そこで、以前ヨークへ旅した時に知り合って文通をしている婦人に花を贈る事を思いつき、住所とお金を預けて帰国後花束を送ってもらいました。(一昨日、ヨークから思いがけなくて本当に嬉しかったとお礼の手紙が届きました)雨のフリーデイは、着物を着せてあげて写真を撮ったりしてのんびりしました。

その他

食事は、殆ど普段のままでしたので、余り覚えていないほどです。お年を召している人なので一つだけ気をつけた事は、紅茶をいつでも自分で飲めるようにしておく事。

寝る時、ピッチャーの水とコップを準備してあげた事です。(夜中に水を飲みにも2階から降りて来なくて良い様に)

初めてのホストがスムーズで楽しかったのですが、この先はどうかと思いますが、機会があれば、又やりたいと思います。

短い期間でしたが、本当に楽しい一時でした。

デイホスト 池田様昌子さん

Q. 1 今回デイホストをされましたがアンバサダーはどのような方でしたか？

A. ご主人のGraham Bickertonさんは冗談を連発してとても愉快な方でした。体の不自由な奥様のJulieさんはにこやかにご主人のされる介護を楽しまれている様子でした。日本では見られぬ風景でしょうか。

Q. 2 アンバサダーとどのように過ごされましたか？

A. 先ず、徳川美術館へご案内して、次に栄の松坂屋へ行きました。栄近辺の渋滞に時間がかかりましたが、ご本人の希望を聞きながら、奥様の体のことを考えゆったりと行動をしました。

Q. 3 お食事はどのようにされましたか？

A. 夜は、奥様の希望で私の家で過ごすことになり、急なことでもあったので、友だちに食事作りの応援を頼み、楽しい夕食のひと時と語らいを楽しみました。

お昼は軽い食事を徳川美術館内で済まして、夜は手作りの日本料理、洋風料理を食べて頂きました。

Q. 4 アンバサダーはどのようなことに興味を持たれ、喜ばれましたか？

A. すべてに関心を持たれ、日本の家庭の様子にも興味をもたれたのでしょうか。

Q. 5 デイホストをして今回の交流を楽しめましたか？

A. ウェルカムパーティー、京都バス旅行、ピクニック、デイホストと今回は忙しい交流でした。

「シャムロック」

デイホスト 安藤 龍 蔵

10月7日の見学会の日、棚村さん宅のアンバサダーの送迎をお引き受けし、5時過ぎにお役目を果たすことが出来ました。

「是非、夕食をご一緒に」との言葉に甘え、棚村さんの素人離れした手料理のフルコースに時の過ぎるのも忘れて、話に花が咲きました。

カーメルさんの幼少の頃の不幸だった生い立ち、甥姪の家族のこと、ロシアから養子を迎えたこと、政府機関の仕事をしてきたことなど、興味深く、楽しい交流ができました。

カーメルさんから Shamrock をプレゼントといただきました。後日、頂いた可愛い鉢に培養土を入れ、その種を蒔きました。

芽を出した3つ葉の植物は、アイルランドの国花、和名はコメツブツメクサで、アイルランド語では、「若い牧草」を意味する可愛い草花でした。

この Shamrock がアイルランドのシンボルとなったのは、アイルランドの守護聖人、聖パトリックとの関係であると言われます。聖パトリックがアイルランドの人に布教したとき、三位一体を

説明するために使ったということです。

3枚の葉を「父なる神」「子イエス・キリスト」「聖霊」に例え、それらが一つの茎に繋がっています。

新たな人との素晴らしい出会いと一期一会の温かさに包まれて、その日、家路についた時は、とくに10時半を回っていました。カーメルさんからの Shamrock を互いに育てている棚村さんとは、これが縁となって、メールや画像のやり取りの交流がずっと続いています。

楽しい思い出をありがとう、FF 愛知。



カーメルさんから頂いたシャムロックの種がこんなになりました。

ビール工場見学と産業技術記念館に同行して

安 藤 龍 藏

旅の疲れと jet lag も癒えぬ来日の翌日 10 時半、麒麟ビール工場のホールに集合したアンバサダーの方々は、初日の一夜を過ごした日本での話で持ちきりでした。

工場内の説明は、ED の鷹野会長の通訳よろしく進められ、オートメーション化された工場から、次々に生産される瓶ビール、缶ビールの工程を興味深く見学しました。

後に美味しく飲むビールの注ぎ方もあり、出来たてのビールで喉を潤した後、昼食。食後のお茶は、一様に Tea。それも、レモンティでなく、ミルクティが欲しかったようでした。

心配していた雨の中、次の目的地の産業技術記念館へ。

産業技術記念館では、特別室で丑野副館長のご挨拶の後、副館長が、熱心に館内の案内を直々に

してくださいました。

愛知のからくりの技術が生かされた発明の数々。織機の発達の歴史。その後を受け継いだ世界に誇るトヨタ自動車の歩み、現代機械工業の粋を集めたメカの展示にと、時の過ぎるのも忘れ、予定の時間は、はるかにオーバーしていました。

見学後、特別室に入り、産業技術記念館で動態展示しているエアジェット織機で織った記念館とモリゾー・キッコロのお図柄の織物 2 枚を記念にいただきました。

まさかと思っていましたが、同行の私たちまでいただき嬉しい限りでした。

実は、ドイツ交流の時、産業技術記念館で織っていた万博の図柄で、記念に欲しかったものでしたから。感謝、感激、雨、霰。

楽しい、マンチェスター交流の 1 日でした。

愛知クラブの友人、ソウルクラブの Hwang さんから愛知クラブへの手紙

愛知クラブの皆様お元気ですか。

今年の春の日本大会前後に家内同伴で又、貴クラブのお世話になりました。特に鷹野会長ご夫妻、星野元会長ご夫妻、加藤紀子様ご夫妻にはホームステイまでお願いして、丁度始まったばかりの万博とかを案内してもらって貴重な体験をしました。

星野元会長のご逝去に私を始めお世話にあずかったソウルクラブの会員一同大変なショックでした。深くご冥福をお祈りいたします。

8 月には新聞記者親睦団体で主催した中国のシルクロード見学旅行に参加して 1 週間ほど西安から敦煌までの強行軍に挑んでみました。9 月には日野原重明博士の講演会が熊本クラブの主催でありましたので、そこにも家内と一緒に顔を出しました。

10 月には 3 泊 4 日と 2 泊 3 日の二回に分けてレンタカーで東部内陸地帯の西海岸への紅葉狩り旅行に行ってきました。

85 歳の大学先輩 3 人が「今生の見納め」にとけしかけられ、ちょっと無理とは思いましたが決行して結構楽しい思い出になりました。

秋にはまだハングルだけのクラブのホームページを作り、パソコンを持っている会員たちが楽しんでいます。私は簡単な英語クラスを週 2 回ほど載せています。

星野元会長に続いて秋には私どもと良い友達でありましたオーストラリアの Noel Pryde さんもお亡くなりになり、世界の方々に災害のあった悲しい一年でもありましたが私は幸いにまだ健康に恵まれて飛び回っています。

元気に又再会できる日を祈っています。皆様ご機嫌よう。

(Hwang さんは現在 81 歳、来年の 2 月で 82 歳になられます。)

マンチェスター交換



事務局からのお知らせ

* 2006 年度交換

受入れ

・オーストラリア・ノースモートン 3月22日～29日

ED 西村貴美子 AED 石崎 昇

ホストを募集しております。希望される方は西村、石崎までご連絡下さい。

西村 kk-nishi@ma.medias.ne.jp Tel 0562-34-0890

石崎 ishizak@bb.excite.co.jp Tel 052-901-6806

・コスタリカ 9月

ED 土居陽子

渡 航

・ドイツ・ハノーバー、ベルギー・ブルージュ 4月27日～5月10日

ED 富岡達也 AED 白木裕己

渡航募集は締め切りました。

* ブロック会議

10月29日(土) 於：奈良市男女参画センターあすなら(奈良クラブ担当)

・アジア・パシフィックフェスティバルについて

フェスティバル後のホームステイについて近隣クラブに協力をお願いしました。

・各クラブ地も渡航者が減少傾向にあり、苦労している。

渡航希望者が少ない場合近隣クラブに呼びかける、又、クラブ同士でジョイントして合同渡航が実現することも考えていく。

・フレンドシップデイの寄付について具体的にどのように寄付金に使われたのか明細を知りたい。

又愛知クラブから、全会員に寄付を呼びかけて期待以上の多くの義援金が集まったことが報告された。

・ホームページの活用について

ニュースレターをホームページで載せるなど活用しているクラブも多いがまだまだ技術的な問題で難しいクラブもある。

* 石井さんが FFI Shining Star Awards を受賞

ブラジルのサンパウロで開かれた世界大会でフィールドレップ・コーディネーターの石井さんが受賞されました。

* 元 FF 愛知クラブ会長 星野鋼市氏が去る 8 月逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りします

* 2006 年度総会

日時 2006 年 1 月 21 日(土) 11:00～

場所 愛知国際クラブ 交流室

総会後、親睦会を行います。 詳細は後日ご案内を差し上げます。

カトリーナ復興義援金について

FFI President George Brown からカトリーナ・ハリケーン募金への礼状が届きました。募金に関しては役員会で当初会の会計から出す案もでしたが、やはり個人の自由意志による募金が良いという意見がまとまり、思い切って会員に呼びかけましたところ思いがけない多くのお金が集まりました。皆様のご協力に感謝いたします。

愛知クラブ役員会

November 15, 2005

Dear Friendship Force of Aichi members:

On behalf of Friendship Force International I would like to thank you for your generous gift of 74000 Yen. Your commitment to helping the Katrina Relief Fund in the Gulf Coast Region is sincerely appreciated.

Each year FFI continues to advance its mission of building global goodwill through personal friendships. Through the Katrina Relief Fund we hope to extend the gift of friendship to the people who have been affected by Hurricane Katrina.

The purpose of the Katrina Relief Fund is to make a difference in the lives of victims of the recent travesty and with the help of donations from supporters such as you we will continue to see improvements in the damaged area.

Thanks again for your generous support of our goal to support the Friendship Force of Baton Rouge in their efforts.

Best wishes,



George T. Brown Jr.
President, Friendship Force International

2005年を振り返って

この1年、地元愛知は大変な活況を呈しました。中部国際空港が開港、来港者数は年間300万人の想定に対し1500万人に達したとのことですし、内外に広く話題を提供したEXPOは、最終的な公式入場者数は目標の1500万人を大きく上回り2200万人に達したと報告されています。

その一方で、国内では最近の耐震強度偽装設計問題の様な人間としてのモラルの欠片もない腐敗事件や、頻発する幼児殺害など目を覆うような痛ましい事件が相次ぎました。

人と人との心の触れ合いが今こそ大切な時だと痛感致します。私達の交流でも互いを思う心さえあれば言葉の高いハードルを越え素晴らしい友人ができることを今年も学ぶことができました。愛・地球博があれほど成功したのは、「自然と人間への愛」を底流としたからと言われています。宣なるかな。（富岡 達也

編集後記

私の担当は本号を以て最終となりました。都合により、今回は合併号となりました。

当初は、Exchange後の交流状況や愛知クラブ外の経験豊富な方々の寄稿、会員の趣味の語り合い等を加える等魅力あるものにしたいと思いましたが意の通りには行きませんでした。

とまれ今は、役割を終えホッとしています。次号からは新たな広報担当がページを一新してくれることになっています。2年間どうもありがとうございました。

（編集担当 富岡）

編集・発行：FF愛知

事務局：〒478-0001

愛知県知多市八幡字笹廻間12-199

Tel & Fax 0562-34-0890

西村 貴美子